

令和6年 新年ご挨拶

三河本苑長 加藤三樹

【令和6年 三河本苑の活動スローガン】

宣教を経糸に人類愛善活動を緯糸に綾を成して、
みろくの世の布を織っていきましょう



Felichan Novjaron! 「令和の五六七」の2年目、明けましておめでとうございます。本年も相変わらぬよろしくお願いいたします。

本年度の教団方針「私たちの6つの誓い」、人類愛善会活動方針「8つの活動目標」は昨年と変わりませんが、この目標を達成する活動の面で重要なことが3つあります。

1. 綾の里整備事業の推進

昨年、農研センター跡地を大本が落札し、いよいよ形に見えてのご神業が進んでいきます。綾の里整備事業の意義を再確認し、目指す神都の姿を実現するために事業推進していきます。

2.「綾の聖地エルサレム大本歌祭」の開催

来年令和7年秋、人類愛善会創設100周年を記念して、この度新しく神域になりました長生殿前に舞台を設けて「綾の聖地エルサレム大本歌祭」を開催します。エスペラントを中心に行なう日本語をはじめ各国々の言葉で献詠歌を朗詠し、世界の和合・平和を祈ります。

3. 重点志向の愛善運動

人類愛善会活動「8つの活動目標」の内、本年は次の4つに重点を置いて活動していきます。

- 1)食・農 2)平和・世界連邦 3)エスペラント 4)芸術文化

【令和6年度三河本苑「5つの重点活動】

教団方針・人類愛善会活動方針に基づき、三河本苑として昨年度の「5つの重点活動」を継続し、重点志向の活動を推進していきます。

1. み教えのインターネット宣教
2. みづほAIZEN発酵堆肥を使った野菜作りと正食 / 食育
3. エスペラントによる献詠歌づくり
4. 青年部員参加の祭典
5. 玉串松の植樹

1月号
2024.1 №.500
(発行者)
大本三河本苑
〒443-0031
蒲郡市竹島町28-5
TEL 0533-69-7518
FAX 0533-69-1455

お知らせ

令和6年1月月次祭「七草粥」にて
健康な一年をお迎えください。
「七草粥」でおもてなし

教本三級認定講習会のご案内

とき/令和6年2月24日(土)・25日(日)

ところ/大本三河本苑

※宣伝使に推薦される方は、3級以上の認定が必須条件です。

◆認定取得のチャンスです!!◆

● 教本3級認定講習会 24日(土)・25日(日)	● 本苑分所・支部長研修会 18日(日)	● 節分大祭 3日(土)	● 本苑1月月次祭 21日(日)	● 本苑新年祭 1日(月)
直会終了後	直会終了後	(梅松苑)	成人式・七草粥	午前十一時

1月の行事

三河本苑公式LINE

↑コチラから
本苑だより更新中

私の思い

金明支部 本田 多世 大きな大きな 恩恵をいただい

昨年十一月の初旬のこと、「頭の太い血管に血栓が詰まったままです」の説明のみ聞いて娘の病室に入ると娘が泣くので、「大丈夫お母さんが元通りにしてあげるから」と、知識も経験も全くありませんのに咄嗟に言ってしまいました。

後はみ手代お取り次ぎにお縋りするしかありません。

身体の動くところは全て、両脚、腕、指までの屈伸とマッサージを一日中繰返しの毎日でした。夜になると消灯を待って「おほもとしんゆ」を拝読し、み手代お取り次ぎが日課となりました。暫くするとゆっくりと歩ける様になり、十一月の下旬になると階段の登り下りが少し出来る様になりました。そして十二月中旬になると、病院の庭を散歩する様になりました。

年が明けて一月に入ると自分の身のまわりの事が少しづつ出来る様になりましたので、私も自宅に帰ることになりました。帰る時には「おほもとしんゆ」第三巻の拝読を終えていました。院長先生もどうしてこの様に回復してゆくのか長い経験からしても分からないと、その後半年病院に置いて下さいました。

傍目には全く後遺症の症状は分からないと友達も言ってくれました。その後暫くして、職場にも復帰しました。
大きな大きな恩恵をいただきました。有難うございました。

【讃美歌】

勇み喜べ人の子よ 命の神は現れましぬ
やみとさせし胸の戸を 神の御声に打ち開き
迎へまつれよ瑞御靈 神は愛なり力なり

魂をけがさぬよう

出囗HILLII館(II鏡127)

元来生の執着は神さまより与えられたものであつて、結構なことである。三十才の生命を神さまより与えられておる人が十五才にして自殺したとするが、十五年のあいだ靈は迷うているのである。しかのみならず靈界へ行けば、すべてが決まってしまうから、人は現界にありますうちに十分働くとして貢わねばならぬ。人生の目的は地上に天国

をひらくためであるから、魂を汚すことである。刀身がゆがむと元のさやに納まらないごとく、魂が汚れゆがむと元の天国にはおさまらぬ。

人間に取つて一番大切なことは、何といつても、生きているうちに死後の存在を確かめておくことである。死後の世界がわかると五輪五常が自然におとなえる。倫常を

破るところには、自分の損になることがハッキリ分かるからである。人間は死後の世界を研究してから仕事をするがよい。

私は人生問題になんで、或る時で爆弾を抱いて死んでやろうかと考え思つたことがある。神さまの御恵みによって、何もかも知らず頂いて歓喜に満ちた生活にはいることが出来たのであるが、当時の悩みもだえ、苦しみ、幾度か死を考えたことほどのそれが痛切であったのである。

翌朝、出勤すると同僚から電話があり、「貴方は何をしてくれたのだ」と言われました。私は「直ぐに会社に行く」とするようにと祈願しただけだと答えると、九州の警察から、「本人を直ぐ引き取りに来い」との連絡があり、詳細は不明ですが何か大変なことが起きたとのことです。その後、詳しい経緯を聞くと、部下は会社に行くこととが嫌になり、車で心のままに移動していたとのことです。九州に到着した時、手持ちのお金もなくなり、公園で車を停めて寝ていたところ、車のガラスを叩く音で目が覚めたそうです。警察に身元確認をされ、家出したことを話すと、保護されることになりました。警察が勤務先に電話確認をしたことで、大騒ぎになつたことが分かりました。

私の「彼の居場所を直ぐに連絡してください」と神さまにお願いした内容がそのまま実現したことになります。神さまが警察や本人を導いてくださつたことはありがたく、不思議なことです。しかし、お願いは成就しましたが、その後、彼は会社を退職し、故郷の東北に帰ることになり、挨拶に来ました。私は納得できないことがあります。なぜ彼が警察に本当のことを話したのか尋ねたところ、彼は口が無意識に話し出してしまい、コメントできなかつたといふことでした。

※今回をもちまして、「遺稿ご神徳談」は最後となります。
♪愛読ありがとうございました。

⑤ 「家出の捜索依頼」

主任宣伝使
松永孝司

遺稿「み手代お取次ぎ」と「J祈願」のJ神徳

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします